

6. 展示会レポート 「メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2018」 CIW 認定事業者 4 社が出展

「メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2018」(主催: 日本能率協会)が7月18-20日の3日間、東京・江東区の東京ビッグサイトで開かれ、CIW 認定事業者 4 社が出展した。

生産設備を維持管理して保全する「メンテナンス」という考え方は、生産設備から道路・橋梁・トンネルなどの社会インフラまで、その関連する領域を拡げている。

また、「国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)」というわが国の重要政策課題により、「レジリエンス」という言葉を耳にする機会が増えている。

「レジリエンス」とは、一般的に「復元力、回復力、弾力」などと訳されるが、個人から企業や行政などの組織・システムに至るまで、社会のあらゆるレベルにおいて備えておくべき「リスク対応能力」「危機管理能力」との概念が定着しつつある。

同展示会は、製造業・建設業の生産性向上、持続可能な社会資本整備、レジリエンス向上を目指し、「プラントメンテナンスショー」「インフラ検査・維持管理展」など9つの専門展示会で構成する。今回、CIW 認定事業者からはプラントメンテナンスショーとインフラ検査・維持管理展に各2社が出展した(順不同)。

ウィズソルは、配管連続板厚測定装置「UDP-24」と、ラインセンサ式配管 RT 装置「ラインスキャナ」を初出展した。

「UDP-24」はマグネットローラーで配管に吸着し、軸方向または周方向にモーター駆動で自動走行する。主な特徴は、①24ch 超音波厚さ計による配管の肉厚測定②高密度・高速測定が可能③塗装上からの測定が可能④全面測定により減肉状況を正確に把握⑤カラーマッピングにより視覚的な判断が可能——など。

「ラインスキャナ」は保温材を解体せずに減肉検査(残肉厚評価)が実施できるため、保温材脱着などの付帯工事に要する時間・コストの大幅な削減が可能。エネルギー弁別機能により、低エネルギー X 線成分の影響を抑制できる。また、配管内容物の影響が撮影画像に及ぼす影響が小さく、従来の RT 画像と比較して鮮明な画像が得られる。走行機については、「各種配管径に合わせて検討し、様々な配管への適用を目指して自社開発中」(同社)



ウィズソル